

2024年度 長崎大学大学院多文化社会学研究科 入試概要

出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。

指導教員の連絡先がわからない場合は、10ページのQRコードからご確認ください。

博士前期課程 (入試区分: 一般入試、外国人留学生入試)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	10名 ※全ての入試区分を含む ※7月期募集で6名程度、2月期募集で4名程度を選抜予定。	修士 (学術) Master of Arts

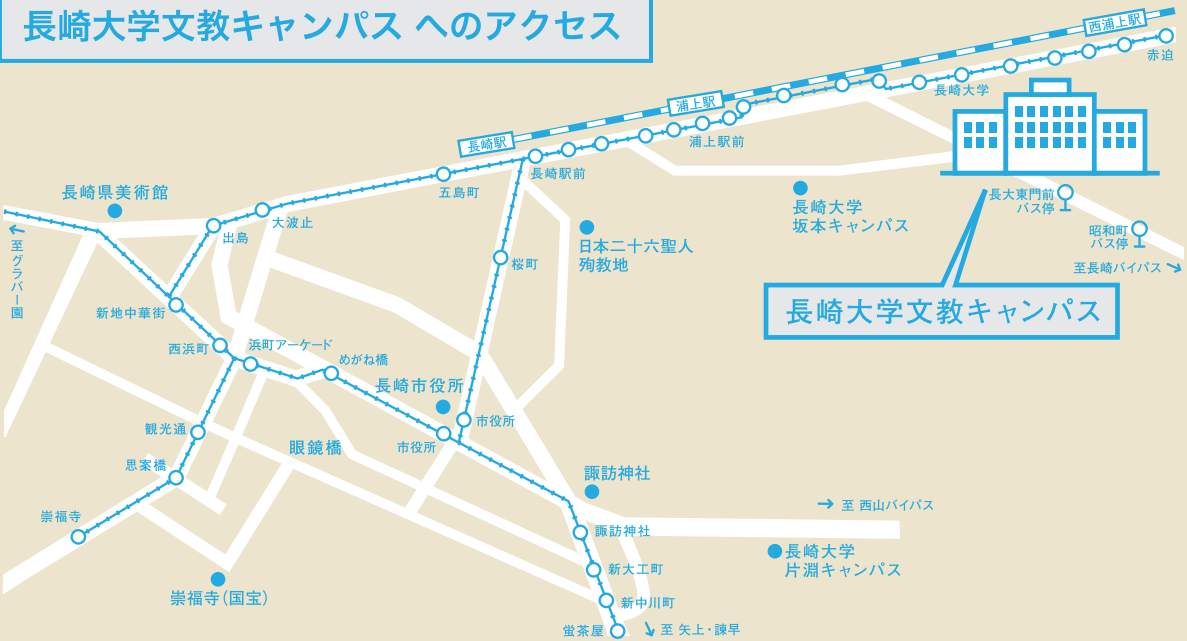
	2023年7月期募集	2024年2月期募集
出願期間	2023年5月22日(月)～5月26日(金) 17:00	2023年11月27日(月)～12月1日(金) 17:00
試験日	2023年7月22日(土)	2024年2月13日(火)
選抜方法	筆記試験: 専門科目 (人文社会科学系)	
	筆記試験: 語学科目 (英語) ※外国人留学生の場合は「日本語」	筆記試験: 語学科目 (英語) ※外国人留学生 A選抜の場合は「日本語」 B選抜の場合は「英語」
	口述試験: 面接 ※研究計画書等に基づく試験	口述試験: 面接 ※研究計画書及び卒業論文等に基づく試験

博士後期課程 (入試区分: 一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、進学者選考)

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	3名 ※全ての入試区分を含む	博士 (学術) Doctor of Philosophy

	2024年1月期募集
出願期間	2023年11月27日(月)～12月1日(金) 17:00
試験日	2024年1月27日(土)
選抜方法	口述試験: 出願書類の内容審査を行う口述試験

長崎大学文教キャンパス へのアクセス



長崎大学人文社会科学域事務部北地区事務課 (多文化社会学系)
〒852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14 TEL.095-819-2975
Mail: hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp



2023年3月発行

長崎大学大学院
多文化社会学研究科



Graduate School of Global Humanities and Social Sciences



研究科長 滝澤 克彦

いま我々が生きているのは、どのような世界なのでしょう。そして、その世界はどこへ向かっているのでしょうか。

今日の世界は、あらゆる領域で加速度的にグローバル化が進み、越境的な結びつきをますます強めています。そのつながりは極めて複雑に絡み合っているため、ある地域で生じた問題が、地球上のはるか離れた場所で、予測もつかない深刻な事態をひき起こすことも珍しくありません。そこには、差別や紛争、貧困や病気といった古典的な問題だけでなく、原子力や情報技術、人工知能や生命科学といった新たな知識や技術の導入にともなう課題も含まれます。

これらの問題は技術によって克服されるべき部分もありますが、一方で人間的・社会的な要因が深く関わっており、問題を回避、解決しようとする人間の努力や行動自体が、予測もできない新たなリスクを生み出すことすら少なくありません。このような複雑な連関を理解するためには、生きることの価値や意味といった根源的な問いを改めて見つめ直す必要があるのです。

本研究科の掲げる「多文化社会学」は、このような課題に取り組む新たな人文社会科学の確立へ向けて、異なる専門領域を横断的につなぎ、現代社会を超越的かつ俯瞰的な観点からとらえる知のあり方を模索します。

そのためには、自らの専門的立場を自明のものとするのではなく、自らの知と世界の関係を相対化し、異なる分野との境界を往還しながら世界に対する理解を深めていく学びが求められます。

博士前期課程の「学問のエレメンツ」と「学問のプラクティス」という枠組みは、その一つの試みです。2020年3月にその第一期生が修了し、同年4月からは博士後期課程がスタートしました。これから学際的、国際的ネットワークを積極的に活用しながら、さらなる飛躍へと挑んでいかなければなりません。この予測もつかない、可能性に開かれた未知なる世界へ、新たな一歩をともに踏み出してみませんか。

教育理念・目標

長崎大学は、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を掲げ、これを実現するために「現場に強い、危機に強い、行動力のある」人材を育成し、21世紀の知的基盤社会をリードすることを目指しています。そのための重要教育目標の一つは、グローバル化時代の国際的な現場でリーダーシップを発揮することのできる人材を育成することです。

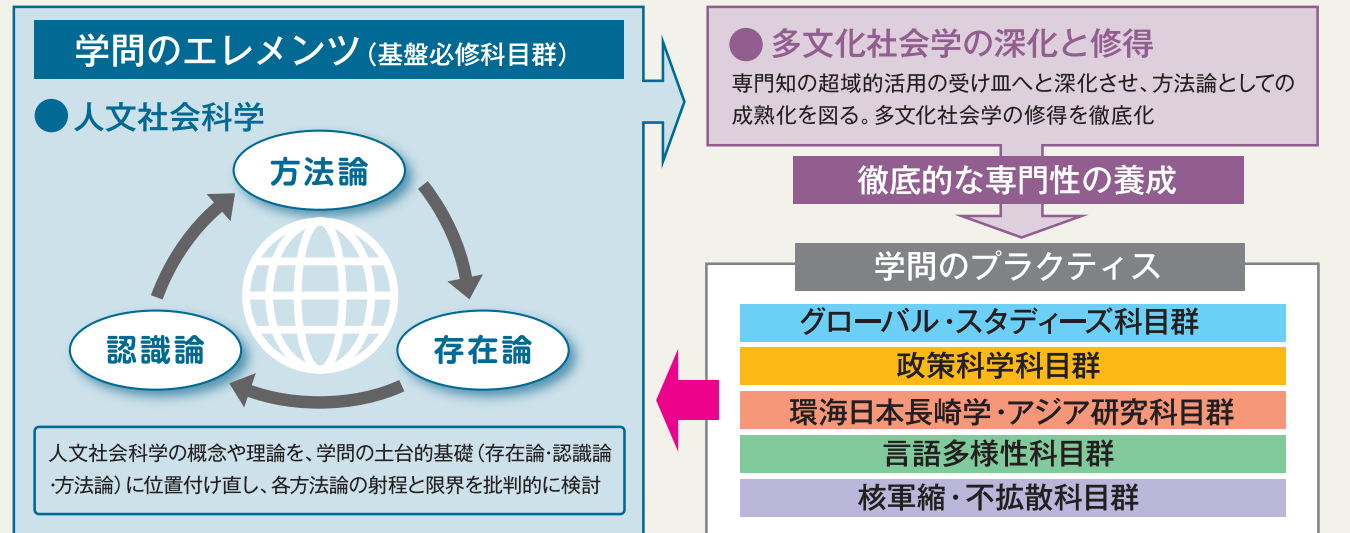
博士前期課程では、21世紀の多文化社会的状況において、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超越的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる人材を養成します。

また、博士後期課程では、21世紀の多文化社会的状況がもたらす諸問題について、「多文化社会学」に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人を養成します。

【博士前期課程】

■ 教員・学生がともに創る新たな学問としての「多文化社会学」

人文社会科学の学問分野は、社会学、言語学・言語教育、歴史学、考古学、政治学、経済学、法学、核軍縮・核不拡散、文化人類学、文学・表象文化、思想・宗教など多岐にわたります。本研究科では、これらの人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—に位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討するとともに、専門知の超越的活用の受け皿へと深化させた、新たな学問としての「**多文化社会学**」を、教員と学生がともに創り上げます。この「**多文化社会学**」の学びを通して、人文社会科学系が本来的に持つ「**批判力**」（現状への批判的反省力）、「**構想力**」（現状打破に向けた展望を提示できる力）、「**実践力**」（領域横断的に知と人を繋ぎ、文化的他者との共生に基づき理念と利害を調整し、計画を実行する力）を修得します。



■ 領域横断型の「多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ」

主選択科目群や指導教員が異なる学生が、科目群横断型の「**多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ**」(必修科目)を共修します。セミナーでは、学問のエレメンツ：多文化社会学(人文・社会)で学んだ専門知、技法、領域横断的枠組みの土台の上で、多文化社会的状況における諸問題の実践的解決法の習得に向けて、ケーススタディ、ディスカッション、レクチャーや研究計画の発表及びブラッシュアップ等を領域横断的に実施します。指導教員以外の教員からも研究指導を受けることができるため、学問的基礎をより確かなものとすることができます。

■ 多様な学外機関(博物館・大学など)との連携

本研究科では、積極的に学外機関と連携し、学生の学びの深化を図っています。

国立歴史民俗博物館との連携 —「総合資料学」の実践—



大学・博物館などが持つ資料を多様なかたちで分析・研究する「総合資料学」を、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、9月上旬に4日間の集中講義として開講します。

博物館のありかたや、展示方法およびその背景にある研究成果について総合展示や膨大な収蔵資料・データベースを通して学んだ上で、

各自対象とする「もの」資料あるいは事象を選び、専門家の助言を基に総合的に分析し、実際に展示構成のプレゼンテーションを行います。

資料単体では得ることのできない情報をさまざまな視点からアプローチして引き出し、研究的資源として幅広く活用し表現する能力は、歴史学の分野に限らず、人文情報学の知識とスキルとして欠かせないものです。

国際基督教大学(ICU)との連携 —国際・平和研究分野の共修と実践—

2019年3月8日、長崎大学と学校法人国際基督教大学(ICU)との間で「国立大学法人長崎大学と学校法人国際基督教大学との包括的連携協力に関する協定」を締結したことに併せて、本研究科とICU大学院アーツ・サイエンス研究科において、「単位互換及び特別研究学生交流に関する覚書」を締結しました。

これにより、双方の大学院生が両研究科の国際・平和研究分野を中心とした授業科目を受講(共修)し、単位を取得することができます(授業はオンラインや集中講義形式で実施)。

博士前期課程カリキュラム・マップ



想定する
入学者

◎人文社会科学系の学部卒業生

◎外国語学部・国際系学部卒業生

◎理系学部・大学院卒業生

◎日本学やアジア研究に関心のある留学生

◎環海日本長崎学・アジア研究に関心のある社会人

◎高度実践力を伴う専門的職業人を目指す社会人

学問のエレメンツ
(6単位)

基盤必修科目群

学問のエレメンツ：多文化社会学(人文・社会)(2)
多文化社会学セミナーⅠ(2)
多文化社会学セミナーⅡ(2)

人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—to位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討・再構築する。

〈身に付く力〉
人文社会系が本来有する批判力(現状への批判的反省力)

学問のプラクティス(16単位)

グローバル・スタディーズ科目群

＜目的＞
人文社会科学の見地から文化的他者への理解と共感に基づき、超域的に知と人を繋ぐことで、民族・宗教・文化・国家の摩擦や対立等における存在や意味の多様性に対する否定・反動に対して、専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
文化的他者への理解と共感に基づき、異質なものの総合からイノベーションを生み出す批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎民族、宗教、文化、国家の摩擦や対立
◎存在や意味の多様性に対する否定・反動

文化表象論特講(2) / 特定演習(2)
現代思想特講(2) / 特定演習(2)
現代宗教論特講(2) / 特定演習(2)
ヨーロッパ社会史特講(2) / 特定演習(2)
アフリカ社会論特講(2) / 特定演習(2)
グローバル・ヒストリー特講(2) / 特定演習(2)
カルチュラルスタディーズ特講(2) / 特定演習(2)
East-West Studies 特講(2) / 特定演習(2)
東南アジア地域論特講(2) / 特定演習(2)

政策科学科目群

＜目的＞
既存の国際経済学(上からの視点)と地球上で生活する人々の視点(下からの視点)を調和した「世界政策論」を開拓し、政策・制度・規範と人間の安全保障に関わる問題等について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
政策課題やその費用対効果、政策の適切な方法を学び、政策研究や政策分析を行う批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎不均衡な資源分配に伴うリスク拡大
◎政策・制度・規範と人間の安全保障

国際人権・国際ジェンダー論特講(2) / 特定演習(2)
アジア・アフリカ法特講(2) / 特定演習(2)
経済開発論特講(2) / 特定演習(2)
国際秩序論特講(2) / 特定演習(2)
地域生態論特講(2) / 特定演習(2)
境界文化論特講(2) / 特定演習(2)
多文化家族研究特講(2) / 特定演習(2)

環海日本長崎学・アジア研究科目群

＜目的＞
人文科学と社会科学の連携に基づく諸観点から、日本・アジアと世界の交叉・輻輳のなかで生じる歴史・文化・社会の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
ローカルな文脈に分け入りつつ、普遍的次元で展開可能な方法と理論を構築するための批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎日本・アジアと世界の交叉・輻輳の中で生じる歴史・文化・社会の問題

日本近世史・日蘭交流史特講(2) / 特定演習(2)
文化遺産論特講(2) / 特定演習(2)
海域交流史特講(2) / 特定演習(2)
華僑・華人研究特講(2) / 特定演習(2)
現代日本政治外交論特講(2) / 特定演習(2)

言語多様性科目群

＜目的＞
言語学の多様性を文法的・音声的特性、文化社会的規則や談話レベルの特性等から捉えることで、コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出等、言語が現実構成の基盤にあることへの理解の欠如に関わる問題についての専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
言語学の諸分野における知見をもとに、言語の普遍性と個別性に対する理解を深化させ、様々な言語使用場面、コミュニケーション場面やレジスターに対応した表現の精選と英語プログラムの立案、実施、及び英語教育者に指導助言できる実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出やルール革新等、言語が現実構成の基盤にあることの理解の欠如に関わる問題

言語学基礎研究特講a(2)
言語学基礎研究特講b(2)
異文化語用論特講(2)
談話分析特講(2)
日英対照言語学特講(2)
方言学特講(2)
英語学特講(2)
言語アセスメント特講(2)
言語教育学特講(2)
応用言語学特定演習(2)
日中対照言語学特定演習(2)
生成統語論特定演習(2)
方言学特定演習(2)
言語学特定演習(2)
言語アセスメント特定演習(2)
言語教育学特定演習(2)

核軍縮・不拡散科目群

＜目的＞
核軍縮・不拡散において人文社会科学系と自然科学系及び研究と実務の両側面を兼ね備える(文理融合)ことで、人道面・安全保障・経済等の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
核軍縮・不拡散分野において人文社会系と理工系および研究と実務の両側面を兼ね備えた実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎核軍縮・不拡散が未完のプロジェクトであることで生じる人道、安全保障、経済面等の問題

核軍縮と国際政治特講(2) / 特定演習(2)
原子力平和利用と核不拡散特講(2) / 特定演習(2)
核軍縮交渉の法と政治特講(2) / 特定演習(2)
核物質管理と核セキュリティ特講(2) / 特定演習(2)

文理融合
プログラム

【学際的総合教育科目】(1~2)より学際的な視野を広げるための諸科目。開講科目数は20科目程度。

【選択科目】海外留学(短期)(2) 海外留学(中長期)(2) 海外フィールドワーク(2) 国際インターンシップ(2) 総合資料学(2) 統計分析基礎論(2)

研究指導(8単位)

研究指導(8) 主選択した科目群で研究指導を受ける

養成する人材像

21世紀社会の多文化社会的状況における諸問題に対して、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる、「多文化社会学」を身につけた人材

授与する学位

修士(学術)(Master of Arts)

想定される就職先

商社・食品・製造等のグローバル企業、国際機関、シンクタンク、国際NGO、編集者、記者、アナリスト(国際社会問題等)、国家・地方公務員、教育者、通訳者、研究者

修了要件
30単位

()内の数字は単位数

03

04

■ 標準履修モデル（修了要件：30単位）

1年次				2年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
学問のエレメンツ 多文化社会学 (人文・社会) (2)	学問のプラクティス科目 (科目群・選択科目) (16)						
	多文化社会学セミナーⅠ (2)		多文化社会学セミナーⅡ (2)				
	研究指導 (8)						
指導体制の決定 主選択科目群の決定		「多文化社会学セミナーⅠ」を通じた研究 計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて 倫理審査 指導教員による研究指導		「多文化社会学セミナーⅡ」を通じた研究 経過の発表及びブラッシュアップ		中間発表会	学位論文の提出 修士論文成果発表会 論文審査及び最終試験

※()内の数字は修得すべき単位数

Pick Up!

【教員との共同研究プロジェクトの実施】

「長崎における外国人技能実習生の就労に関する社会学研究」
(令和元年度／令和2年度部局長裁量経費教育実践支援事業) (代表：賽漢卓娜教授)

本研究プロジェクトでは、フィールドワークの手法を用いて長崎県及び九州圏内の外国人技能実習生の就労に関する調査を実施しました。具体的には、外国人技能実習制度における事前研修の課題や外国人技能実習生の生活実態を明らかにするための研究を遂行しました。一連の研究調査を通じて、生活者としての外国人や移民とともに築き上げる多文化社会の課題と展望を考察することを目指しました。

外国人技能実習制度をめぐる課題という特定のテーマを通じて、大学院生に対して方法論の研鑽を積む機会を与えることで、学術研究と社会実践双方へのフィードバックを進めるための作法を修得させることが可能になりました。

共同研究プロジェクトに参画した大学院生より (2020年度修了生)
【政策科学科目群】堀江 直美 HORIE Naomi

2年間にわたるプロジェクトを通じて、長崎県内において急増する20代を中心とする技能実習生たちの事例から、彼らの生活世界を捉えることができました。日本の少子高齢化などによる労働者不足により、技能実習生の就労現場は、以前のように農業・漁業・畜産業などの第一次産業や製造業、建設業、縫製業だけではなく、私たちの日々の生活を支える身近なスーパーマーケットのバックヤードの惣菜部門や製パン業など、多様な分野にわたっています。今回の調査からは、若い世代の外国人労働者たちによって我々の暮らしが成り立っている実態が明らかになりましたが、彼らを取り巻く労働環境は、低賃金や長時間労働、人権侵害など改善する余地の多い状況も浮き彫りになりました。しかし、このような状況も支援団体や地域の人々との関係性において改善されることが明らかになりました。

本プロジェクトを通じた研究活動を遂行するなかで、技能実習生ら外国人労働者と「我々」の関係を再考する機会を得たことは、日本の地域社会における多文化共生の課題をより深く考察することにつながりました。



ベトナム語ミサの後の記念撮影



研修中の技能実習生たち

Student's Voice



2年 周 晴
ZHOU QING
【グローバル・スタディーズ科目群】

自分の研究だけにとどまらず、より多角的な側面から社会を理解し考えよう

私は北京外国語大学の日本語学院を卒業し、本研究科に進学しました。今は日本社会における宗教の社会貢献活動について研究を進めています。大学時代から、社会学に関心を持っていました。卒業論文の研究をさらに一歩進めようと思い、研究計画書を書きました。その際、異なる学術分野を横断的に繋ぎ、現代社会を俯瞰的な観点から捉えるこの多文化社会学研究科に魅了され、進学する決意をしました。本研究科では、自分の専攻に限らず、国際関係、移民研究、統計分析等、学際的な視野を広げるための科目を履修することができます。履修人数に関わらず開講するため、時には一对一の対話型授業を取ることができます。これらの科目は、私の研究に様々な視点を与えたのみならず、より多角的に社会を理解し、考えることを可能にしてくれました。また、研究科の自由に話し合う雰囲気にも魅了されています。研究科の先生と学生が集まって学際的に議論する「多文化社会学セミナーⅠ、Ⅱ」のほか、学生のための研究室においても、院生同士で研究について自由に意見交換をすることもできます。

【博士後期課程】

■ 各研究領域における更なる専門化と体系化

博士後期課程では、各研究領域における更なる専門家と体系化を図るため、博士前期課程において設定している5つの科目群を基盤としつつも、その専門性をなお一層深化させた5つの研究領域(系)を編成しています。博士後期課程を担当する教員はいずれかの系に属しており、学生は指導教員が属する研究領域(系)に基づいて研究課題にアプローチし、研究指導チームの指導の下、21世紀の「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を養うなかで、持続可能な社会の構築に資する質の高い研究計画を立案し、それに基づき研究を実施します。

＜博士前期課程における科目群＞

グローバルスタディーズ科目群
政策科学科目群
環海日本長崎学・アジア研究科目群
言語多様性科目群
核軍縮・核不拡散科目群

＜博士後期課程における研究領域(系)＞

社会文化研究系
公共政策研究系
環海日本長崎学・アジア研究系
言語研究系
核兵器廃絶・平和学系

■ 標準履修モデル（修了要件：16単位）

1年次				2年次				3年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
多文化社会学特別演習Ⅰ (2)		多文化社会学特別演習Ⅱ (2)									
研究演習Ⅰ (4)				研究演習Ⅱ (4)				研究指導 (4)			
研究指導 体制の決定			中間発表会 研究成果 報告書Ⅰの 作成				中間発表会 研究成果 報告書Ⅱの 作成			予備審査 論文の提出 予備審査	学位論文の 提出 論文審査及び 最終試験
「研究演習Ⅰ」を通じた研究計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ 研究内容に応じて倫理審査				「研究演習Ⅱ」を通じた研究経過の 発表及びブラッシュアップ				指導教員による研究指導 博士論文 成果発表会			

※()内の数字は修得すべき単位数

■ 養成する人材像

21世紀の「多文化社会的状況」がもたらす諸問題について、多文化社会学に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人

■ 授与する学位

博士(学術) (Doctor of Philosophy)

■ 想定される就職先

研究者(留学生の母国の大学や研究機関を含む。)、グローバルに展開する企業、国際機関、社会人の学び直しなど

■ 多文化社会学にふさわしい学際性の担保

研究指導は、主指導教員とは異なる研究領域(系)の副指導教員1名を含む3名の研究指導チームにより行います。必要に応じて学生の研究テーマを考慮して学外の連携機関から学外アドバイザーを選出します。

(学外アドバイザーを選出する主な国内外研究機関)

ライデン大学、国際基督教大学、東洋文庫、国立歴史民俗博物館等



東洋文庫 モリソン書庫

■学位論文審査基準（博士前期・後期課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、学位論文の審査基準を次のとおり定める。

1. 審査体制

学位論文の審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上の計3名以上からなる学位審査委員の合議により行う。

2. 審査方法・評価及び審査項目

学位審査委員は、以下の審査項目を基に論文審査及び最終試験を行い、AA（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、不可（59点以下）で評価する。

なお、論文審査及び最終試験は、論文審査出願者ごとに発表及び口頭試問により行う。

【審査項目】（1）～（4）：前期・後期課程共通 （5）：後期課程のみ

（1）研究目的・テーマ・課題設定の明確性及び適切性

研究目的・テーマ・課題設定が明確、かつ適切になされていること。

（2）先行研究・資史料の取り扱いの適切性

先行研究の十分な知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われていること。

（3）研究方法・分析手法の適切性

研究方法・分析手法が、データ、資史料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行なわれていること。また、先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
※研究計画の立案及び遂行、研究成果の発表、データ等の保管に関して、必要な倫理的配慮がなされていること。

（4）論旨の明確性・構成の適切性

論旨が一貫しており、設定した課題に対応した明確かつ論理的な結論が提示されていること。また、文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等などの体裁が整っていること。

（5）上記の基準に加えて、当該学問分野における研究を発展させるに足る学術的意義・価値が見いだせること。また、その点に基づいて、論文審査出願者が近い将来、自立した研究者として活躍していく確かな研究能力及び豊かな学識が認められること。

■ 修士論文タイトル（修了生の一例）

グローバル・スタディーズ科目群

Literary Representations of Japan in the Works of Haruki Murakami and David Mitchell
マッピングで考える長崎を舞台にした日本の小説について



政策科学科目群

移り変わるベトナム系コミュニティ—長崎のカトリック教会に集う若者たちの生活世界の視点から—
族際婚姻したモンゴル族母親の教育戦略—民族教育を受けた母親の語りを手がかりとして—

環海日本長崎学・アジア研究科目群

在日華人子女に対する中華文化の教育と伝承に関する研究 —長崎における華人子女を対象に—
中国におけるキア主義の展開についての理論的考察—社会構造、権力とセクシュアリティを中心に—

言語多様性科目群

Examining the Impact of Watching English Videos with Bilingual Subtitles on Japanese University Students' L2 English Vocabulary
中学校期における英語発信能力の育成 —英作文表現の効率化に向け、語彙がもつ「コア・イメージ」を活かした語彙指導・文法指導の実践—

核軍縮・不拡散科目群

韓国人被爆者：「語り」から見る社会的被害の特徴分析
北東アジアにおける非核化と日本の安全保障—日米同盟の視点からみた「朝鮮半島の非核化」と「北東アジア非核兵器地帯」の比較考察—

【卓越大学院プログラム】

アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム
Applied Humanities Program for Cultivating Global Leaders



■ プログラム概要

本プログラムは、人文科学の発想を基礎に据えながら、進化したDigital Humanitiesの方法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示し得る、刷新された人文的学知 Humanities Innovationに基づく大学院教育プログラムを「臨床人文学」という概念で位置づけ、アジアユーラシアを主とした国内外の多様な機関との横断的連携ネットワークによる「臨床人文学」の学びをとおして、現代社会の課題に対して、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知に基づいて多様な存在と協働し、ダイバーシティ社会を主導していくトップマネジメント人材を養成する、5年一貫の博士課程学位プログラムです。

【連携先機関】 千葉大学（◎主幹校）、岡山大学、熊本大学、総合研究大学院大学、国立歴史民俗博物館、浙江工商大学東方語言文化学院（中国）、ロシア人文学大学東洋古典学研究所（ロシア）、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団、株式会社 JTB 総合研究所、千葉銀行	
---	--

■ プログラムの特徴

- ◎本プログラムは、文部科学省「卓越大学院プログラム」事業が支援する学位プログラムです。
- ◎アジアユーラシア研究と Digital Humanities 2.0 を2本柱とした5年一貫型のカリキュラムを学びます。講義・演習科目の他、アジアユーラシアでのフィールド・リサーチやプログラム学生を一同に会した合同コロキウムを開催します。
- ◎連携5大学による機関横断型指導教員チームで指導します（主指導：在籍大学教員、副指導：連携大学教員）。
- ◎研究科の修了要件単位数に加えて、プログラム修了に必要な単位を修得します（博士前期：12単位、博士後期：8単位）。
- ◎修了者の学位記に、プログラムを修了したことを付記します。
- ◎原則、プログラム学生にRA経費等の経済支援を行います。 ※本学の財政状況により変更の可能性有

■ 標準履修モデル（博士前期課程）

プログラム履修生は本研究科の授業科目に加えて、以下のとおりプログラムに必要な授業科目（単位）を修得します。

1年次				2年次			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	アジアユーラシア研究法 (1)						
	Digital Humanities 2.0 研究法 (1)	その他、選択必修科目 (6) (本研究科又は連携大学が提供する授業科目から履修)					
	総合研究演習Ⅰ (2)			総合研究演習Ⅱ (2)			
学生の募集・決定 指導体制の決定	合同コロキウム				合同コロキウム		リサーチペーパー (修士論文) の提出 ゲート審査
	フィールドリサーチ (国外1か所以上を含む2か所以上) 『総合研究演習Ⅰ・Ⅱ』を通じた研究計画 (案) 作成・発表及びブラッシュアップ						

※（ ）内の数字は修得すべき単位数

Student's Voice



2年 渡辺 優樹
WATANABE Yuki

【政策科学科目群】

「多文化社会」の実現を目指す上で必要な研究力を養成できる環境

プログラム履修生の研究活動報告

私は、イスラエルが東エルサレム含むヨルダン川西岸地区において、家屋の破壊や土地の収奪等を伴いながら行う「入植行為」の問題に関して国際法とイスラエル国内法の比較、さらに入植問題に係るイスラエル国内の裁判において、どのような国内法があり、またそれらがどのように適用されているのか、法について研究を深めています。本研究科で研究に取り組むことで、様々な学問領域の下で研究を進める研究科生や先生方からのコメントや指導により自身の研究を広い視野で見つめ直すことができ、研究に深みを与えてくれます。本研究科の講義である「多文化社会学セミナーⅠ・Ⅱ」では、自身の研究発表に対して多くの先生方や研究科生から示唆的なコメントや質問を受けるため、自身の研究領域外からの視点が得られます。卓越大学院プログラムでは、多言語多文化世界であるアジアユーラシア地域を重層的に洞察する力、またGIS（地理情報システム）デジタル情報を通して可視化される環境変動や社会空間を読み解く技法など、激動する現代社会の諸課題に柔軟に対応するための基礎が身につけられます。

研究環境・学生支援制度

研究科演習室等

大学院生の研究活動を支援するため、大学院生専用の研究科演習室のほか、スキャナを備えた Digital Humanities Lab、専門書や修士論文等を配架した多文化図書室を備えています。



院生研究室等

院生研究室の建物には、個人用デスクのほか、ディスカッションができるフリースペース、複合機、WiFiなど、個人の研究やグループでの活動ができる快適な研究環境を整備しています。



長期履修制度

標準修業年限での修学が困難な事情にある者については、標準修業年限に納付すべき授業料で標準修業年限の2倍までの履修期間を申し出て認定を受けることができます（博士前期課程：4年、博士後期課程：6年）。

【対象者】職業を有し、就業している者、家事・育児・介護等に就いている者、障がいのある者 など

教育職員免許状

高等学校教諭一種免許状（英語）を有する者は、本研究科博士前期課程において所定の単位を修得すれば、高等学校教諭専修免許状（英語）を取得することができます。

就職・進学先の主な実績（社会人学生を含む）

【就職先】民間企業（英語教育関連等）、中学校英語科講師、日本の大学又は海外の高等学校における日本語教師・講師、地方公務員 など

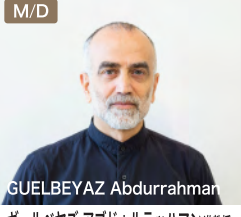
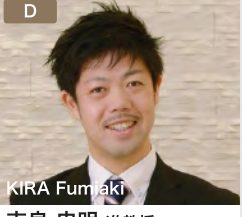
【進学先】多文化社会学研究科博士後期課程進学



知識と経験を“深化”させてくれる教員と
学びとの出会い

各教員のプロフィールや研究テーマについて、詳しくは大学院のWEBサイトをご覧ください。

（M：博士前期課程担当、D：博士後期課程担当）
◎：主な研究テーマ

D  IDA Yoko 井田 洋子 教授 ◎国家論 ◎政教分離 ◎平和学	M/D  KIMURA Nao 木村 直樹 教授 ◎日本近世史 ◎交流史	M/D  SAITSU Yumiko 才津 祐美子 教授 ◎民俗学・文化人類学 ◎文化遺産研究	M/D  SAIHANJUNA 賽漢卓娜 教授 ◎家族社会学 ◎移民研究	M/D  SUZUKI Aiyoshi 鈴木 章能 教授 ◎比較文学 ◎英米・英語圏文学	M/D  SUZUKI Tatsuro 鈴木 達治郎 教授 ◎原子力平和利用 ◎核軍縮・核不拡散
M/D  TAKIZAWA Katsuhiko 滝澤 克彦 教授 ◎宗教学 ◎モンゴル研究	M/D  NISHIHARA Toshiaki 西原 俊明 教授 ◎コーパス言語学 ◎応用言語学	M/D  NOGAMI Takenori 野上 建紀 教授 ◎考古学 ◎海上交易史	M/D  HAYANACI Kazunori 葉柳 和則 教授 ◎文化表象論 ◎文化社会学	D  MAEDA Keiko 前田 桂子 教授 ◎日本語学・方言史	M/D  MORIKAWA Yuji 森川 裕二 教授 ◎国際政治学 ◎東アジア国際関係
M/D  YANG Xiaolan 楊 晓安 教授 ◎実験音声学 ◎統語論	M/D  YOSHIDA Fumihiko 吉田 文彦 教授 ◎核軍縮・核不拡散 ◎軍備管理条約	D  YOSHIDA Yuri 吉田 ゆり 教授 ◎発達臨床心理学・発達支援と施策研究	M/D  WANG Wei 王 維 教授 ◎移民/マイノリティ研究	M/D  ANEGAWA Yudai 姉川 雄大 准教授 ◎歴史学 ◎ヨーロッパ近現代史	D  OHIRA Teruhisa 大平 晃久 准教授 ◎文化・社会地理学
M/D  CUTRONE Pino カトロニ ピノ 准教授 ◎応用言語学 ◎語用論	M/D  KAWAMURA Arinori 河村 有教 准教授 ◎アジア法（人権/ジェンダー/平和） ◎刑事法学	M/D  GUELBEYAZ Abdurrahman ギェルベヤズアブドゥラッハマン 准教授 ◎記号論 ◎文化理論	D  KIRA Fumaki 吉良 史明 准教授 ◎日本近世文学 ◎日本思想史	M/D  KOMATSU Satoru 小松 悟 准教授 ◎開発経済学 ◎環境経済学	M/D  COMPEL Radomir コンペル ラドミール 准教授 ◎比較政治学 ◎日本政治史
M/D  SATO Yasuaki 佐藤 靖明 准教授 ◎民族生物学 ◎アフリカ地域研究	M  SHIRAI Shoji 白井 章詞 准教授 ◎キャリア教育	D  NAKAJIMA Yuri 中島 ゆり 准教授 ◎教育社会学	M/D  NISHIKAWA Mami 西川 美香子 准教授 ◎応用言語学（言語テスト） ◎英語教育	D  HATANAKA Taiji 畑中 大路 准教授 ◎教育経営学 ◎教育行政学	M/D  HARADA Souichiro 原田 走一郎 准教授 ◎方言学 ◎記述言語学
M/D  HOSODA Naomi 細田 尚美 准教授 ◎文化人類学 ◎移民研究	M/D  MINAMI Makoto 南 誠 准教授 ◎歴史社会学 ◎国際社会学	M/D  MORI Motonao 森 元斎 准教授 ◎哲学 ◎現代思想			

※教授（アイウエオ順）、准教授（アイウエオ順）に掲載しています

